

平成 30 年度
第 2 回
総合教育会議議事録

日時 平成 30 年 8 月 30 日（木）午前 10 時 30 分～

場所 市役所東分庁舎 5 階 会議室

第2回総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成30年8月30日（木） 午前10時30分～正午
 - 2 場 所 市役所東分庁舎5階 会議室
 - 3 出席者 いわき市長 清水 敏男
いわき市教育委員会 教育長 吉田 尚
いわき市教育委員会 教育長職務代理者 馬目 順一
いわき市教育委員会 委 員 山本 もと子
いわき市教育委員会 委 員 根本 紀太郎
いわき市教育委員会 委 員 宮澤 美智子
 - 4 議 題
 - (1) 教職員の働き方改革について～部活動のあり方～ 資料1
 - 5 その他
 - (1) 学校教育におけるICT化の取組状況 資料2
 - (2) 先人教育について 資料3
-

1 開会

2 議題

会議設置要綱第4条の規定により、市長が議長となること、また、同要綱第7条第2項の規定による第2回会議の議事録への署名は、吉田教育長及び山本委員が行うことを確認した。

(1) 教職員の働き方改革について～部活動のあり方～

① 事務局説明

ア 学校教育課 玉澤課長

資料1「教職員の働き方改革について～部活動のあり方～」により説明を行った。

② 質疑、意見等

(宮澤委員)

- ・子どもたちが救命講習等を経験する機会はあるのか。

(玉澤課長)

- ・学校の保健体育のなかで、講習をする。中学校では、救急救命講習を年間計画に位置付けている。

(根本委員)

- ・教職員の働き方改革という観点からの説明であったが、部活動のあり方が変わっていくことについて、生徒の視点からはどうなのか。
- ・私も中学時代、部活動を通じ、試合で勝つことの喜びなどを経験した。大人になり、スポーツ少年団の指導にも携わることもできた。
- ・部活動をしていた子どもも、成人してから続けている者は少ない。小中学校のときに、一つのことに集中するのもいいが、いろいろなことを体験する機会があってもよいと思う。「いわき志塾」を実施しているが、部活動があるから参加できないという声もあることから、部活動のあり方を考えるべき。

(宮澤委員)

- ・先生の働きすぎという実態に驚いている。部活動のあり方というのは、先生だけの問題ではなく、保護者の負担や子ども本人の自己達成感、コミュニケーションなど、いろいろな問題がある。スポーツ等の技能を向上させることもあるが、子どもたちと先生の健康、また、安全に行えること、日常生活とのバランスを考慮していくことが大切。
- ・また、先生の視点からも、疲労の蓄積から注意力が散漫となり、管理能力の低下による事故を招きかねない。練習の上限時間を設定、遵守し、管理者のチェック能力を保つことも大事ではなかろうか。
- ・一方、スポーツレベルの向上の視点からすると、オリンピックに出場するなど高みを目指す子どもにとっては、上限を定めることがネックとなりうるので、フォローアップすることも大切。
- ・また、部活動の経験が、生涯を通じて、人生を豊かにするものになればよいと思う。大

人になっても、ジョギング、ウォーキング、スイミング、ジムに行くなどの運動が、心身の健康に不可欠である。子どもたちが、部活動で燃え尽きてしまい、その後長い人生において、まったくスポーツすることのない人生は、もったいなく、寂しいこと。

- ・市として、偏りすぎない部活動のあり方を検討していただきたい。
- ・最後に、今後、子どもの数が減少するにつれ、A校とB校の子どもが合同で練習することになった場合、各校の部活動顧問がそれぞれ対応するのは、時間的ロスや人的労力などがかかる。
- ・民間のスポーツ団体など地域の力を利用して、進めていくことも考えていかなければならない。子どもにとっては、学校外での、地域の多様な価値観を知る機会になる一方、保護者にとっては、学校外の方なので、うまくコミュニケーションがとれるか、何か身の危険を感じることはないかという不安を感じるかもしれない。

(玉澤課長)

- ・いただいたご意見を尊重して参りたい。

(山本委員)

- ・中学校の期間においては、子どもから大人へと移り変わる境界線であり、身体的な成熟のほか、人間形成の時期からみても、大切な時期となる。部活動のあり方に関しては、各校が足並み揃えて、実行できるように努力していかなければならない。
- ・学校中心型の部活動は、日本独特のもの。部活動によって、自主性や協調性、責任感、連帯感、仲間や顧問の先生との密接なふれあいなど、教育的意義が大きい。
- ・そのため、部活動のあり方に関する方針等を作る前に、子どもが置かれている実態を、先生方に、もう一度見つめてほしい。
- ・例えば、行き過ぎた活動になっていないか。1週間に16時間以上で、スポーツ外傷などの発生率が高くなる。そのような長時間の部活動により、燃え尽きてしまい、その後のスポーツする機会が減ってしまうことになる。そのことは、部活動を通じ、生涯にわたってスポーツに親しむという意識を育むことに相反することになる。
- ・また、勝利至上主義に陥り、過度な練習により、生徒の生活や成長に支障をきたしていないか。発育や発達の特性を考慮しないような練習をしていないか、非科学的な活動をしていないか。
- ・さらに、陸上などの個人競技と、野球など連係プレーを要する集団競技とでは、必要な練習時間が異なることもあるが、時間を設定する以上、量より質の向上に努めていただきたい。例えば、北海道のあるサッカー部では、練習時間は、いわき市と同じだが、全国大会で準優勝した。子どもたちは、やらせられている部活動ではなく、自ら考えていく姿勢、自主的、自発的な行動がとれるようになり、勉強との両立など、大きな成果があがっている。

- ・こういう実践例を参考に、各校が考えていくことが必要。
- ・調査によると、競技経験のない教員が46%、時間外勤務のうち、部活動に最も時間をかけたと回答した教員が43%という実態もある。
- ・部活動指導員の活用についても、静岡市教育委員会が先行して実践しているので、参考にしながら、市として、各校が足並みを揃え、実効性がある方針等になることを期待する。

(馬目委員)

- ・社会性の伸長など、部活動の意義は大きい。ただ、子どもたちにとって過重なものとなっているのは重大な問題。大会で上位に入りたいというのは、生徒、保護者、先生ともに同じ思い。そのように皆一丸となって進んでいるときに、間をおいてくださいというのは言いにくいということもある。
- ・一定のルールを作って校長が管理するという体制づくりを、教育委員会で進めてほしい。

(根本委員)

- ・保護者のなかでも上限時間の設定等について、意識差が出てくることも想定される。
- ・子どもが、部活動において、限られた時間の中で、どう練習したらよいかなど、自ら課題をもって考えていく力を養う場にもなればよいと思う。

(山本委員)

- ・方針等を実行していくにあたり、保護者の理解、協力を得ていくことが大事。
- ・また、学校だけではなく、地域の体育協会やスポーツクラブなどとの連携も大事。

(清水市長)

- ・あまりにも大会が多すぎると思う。大会が多ければ、それだけ、先生の出勤も多くなる。また、大会に臨む練習ということで、だんだんと子どもたちにとって過重なものになっていくということもある。
- ・教育委員会が各競技団体に対して、大会の精選について要請するのみならず、各競技団体と協議をして、現実として厳選していくことが大事。
- ・各委員からの様々な意見を踏まえ、生徒の健康、安全を第一に、今後の部活動のあり方に関して方針等を策定するなど取り組んでいただきたい。

(吉田教育長)

- ・競技団体への要請について、具体的な目安日数を示していきたい。また、中体連のシードが、各大会の成績ポイントによって、決定するということも変えていけるよう、競技団体との協議や保護者への説明など、教育委員会としてしっかりと取り組んで参りたい。

3 その他

(1) 学校教育における ICT 化の取組状況

① 事務局説明

ア 学校教育課 玉澤課長

資料2「学校教育における ICT 化の取組状況」により説明を行った。

② 質疑、意見等

(山本委員)

・今年度、小学校では算数、中学校では英語、理科を導入していただき、感謝している。
今後も、少しずつでもいいので、ご対応方よろしくお願いいたします。

(根本委員)

・8月に実施したプログラミング研修には、何名の先生が参加したか。

(玉澤課長)

・パソコンの台数が限られていることもあり、20 数名の参加であったが、希望者は多かった。
ので、今後、改善・検討して参りたい。

(宮澤委員)

・先生によって、電子機器の操作に長けている方と、そうでない方がいると思うので、研修等でフォローしながら、また、プログラミング教育について、個々の先生が活用したデータを収集、共有しながら、進めていただきたい。
・また、先進的なデジタル教科書と、従来の、実際に手で開いて読むことができる紙の教科書、それぞれの特性を活かしながら、有効活用していただきたい。

(吉田教育長)

・子どもの数が減少している昨今、コンピュータ教室も十分に活用できていないという実態もある。
・モデル的に、コンピュータ教室にプログラミング教材をそろえ、先生と子どもたちがともに、研修できるようにすることなどについて、今後、検討して参りたい。

(清水市長)

・ICT 化は社会の情勢であり、ますます重要な課題となる。先生だけで対応するにも限界があることから、市内 NP0 や企業、コンピューターカレッジ等と連携しながら、いかに、子どもたちにとって、良い情報化教育ができるか検討するなど、よろしくお願いいたします。

(2) 先人教育について

① 事務局説明

ア 学校教育課 玉澤課長

資料3「先人教育について」により説明を行った。

② 質疑、意見等

(山本委員)

・先人教育は、子どもたちに将来の夢、ふるさといわきへの愛着を持たせること、目標に向かって自分も努力しようという気持ちを奮い立たせることなどから、大変良い取組みだと思う。

(吉田教育長)

・先人については、社会科の授業において、郷土資料集にも記載されているが、史実を中心にスポット的に扱うのみで、生い立ちや為人など、それ以上深くは扱わない。朝の読書活動で、このような読み物集を活用することで、子どもたちが興味を持っていくものと思いい、順次作成して参りたい。

・現在までに作成した星一、安藤信正及び片寄平蔵については、2学期から各学校で活用する予定。

(清水市長)

・星一の説明に関し、息子の星新一も小説家として有名なので、一はその父であるということ、いわきの子どもたちに知っていただければと思う。

・他に、質疑、意見等無ければ、これで議事については終了し、議長の職を解かせていただきたい。

4 閉会

【署名】

吉 田 尚

山 本 も と 子